

オンリーワン



この機関紙は、西条市障害者相談支援センターがパソコン就労をめざす障害当事者グループ「オンリーワン」に編集を委託し、協同で作成したものです。

バリアフリー
ペーパー

8月号

平成 24年8月21日発行

偶数月発行



暑い日が続いていますが、みなさまいかがお過ごしでしょうか？
私事ですが、7月に1年間の育児休暇を終え、復帰させていただきました。
少しの間に様々なことが変化し、まさに「うらしまたろう」の状態です。
そんな中で、オンリーワンメンバーに会うと、ほっとした気持ちになります。
変わらない人と人との繋がりが、私に安心感や元気をくれています。地道な活動を一緒に続けてくれる仲間感謝の気持ちでいっぱいです。
(支援センター 津島)

ハーモニーの1日喫茶開店

☕7月7日、ハンディを持つ人達のグループ「ハーモニー♪」が1日喫茶を開店するとのことで、おいしい手作りシフォンケーキとコーヒーを頂いてきました。富士保育園の夏祭りの協賛で今年3回目となったそうです。場所は旧「カブトガニ餅本舗」店舗です。すでに閉店になったお店が喫茶としてオープンする1日を、元店主の方は毎年とても楽しみにされているとのことです。絶え間なく人がお店を訪れ笑顔で帰っていきました。

☕障害者の《アビリンピック喫茶部門》で入賞経験のあるメンバーの飯尾さんは「最初はみんなで喫茶の練習をした。ちょっとずつ上手になってきた」と、丁寧にケーキを運んでくれました。アットホームな素敵な1日喫茶でした。

【ハーモニー♪の活動】

ハーモニーは、喫茶の他、ハンディを持つ人の様々な余暇活動に取り組んでいるボランティア団体です。今後も一緒に活動したいという仲間を募集しています。

日 時：隔週土曜日 場 所：旧西条市内を中心に活動 お問合せ：0897-55-8967

内 容：調理実習や外食、小旅行、地域行事への喫茶の出店など。

会 費：1000円/月（土曜クラブの調理時は500円/1回、その他レクリエーションは実費）



(イラスト しんすけ)

タイ王国に住む当事者の奮闘記(海外編)

2012年7月2日～7日、HFF JAPANの主催した「タイに車いすを運ぶスタディツアー」



に参加しました。HFFとは、ヒーリング・ファミリー・ファンデーションの略で、日本とタイの交流を深め、タイの障がいがある人たちの活動を支援しています。

今回参加したスタディツアーは、日本で使わなくなった車椅子を集め、ボランティアの小学生たちが車椅子を綺麗に磨き、福祉を学んでいる大学生さんとタイまで運んで行くものです。

今回は第10回目で佐賀女子短大の学生さんが5名と前山先生、HFF JAPAN代表の大垣内さん。愛媛からは私と私の姪、そして私が活動している今治の就労継続支援B型事業所「すくらむハート」の理事長渡部さん夫妻、合計11名で参加しました。

「スタディツアー」では、タイ・チェンマイにある政府機関の子ども病院（子ども療育センター）に車いすを持って行きました。そこには、世界中からのボランティアが集まっており、車椅子を乗れるように修理し、車いすを必要としている人とその人に合う車いすのマッチングをしていました。

チェンマイだけでなく、山岳民族の人たちも遠くから来ており、子どもの障がいや生活しづらさが少しでも軽減されるように、という親心は日本もタイも同じものを感じました。

タイでは、HFF TAHIのアーティスト達（障がい当事者たちの事を「アーティスト」と呼ぶ）が、たくさんの色の糸を使い個性ある手織り布を織っています。織物は一つ一つ違って、それぞれがとてもカラフルです。

その織物をTシャツや財布・バッグ・エコバッグなどに加工し販売しています。



偶然、チェンマイから車で1時間半の隣町ランプーンに住むマイさんを訪ねる機会を得ました。彼女は私と同じ障がい（ポリオ）当事者です。ランプーンへの道中は、のどかで美しい風景が続いており、バナナやラムヤイ（竜眼）というフルーツがたわわに実をつけている畑が広がっていました。

私たちが訪ねると、マイさんは冬瓜のピリ辛サラダや、果汁100%のグアバジュース等を用意してくれました。マイさん宅はバリアフリーで、私の家と同じように車いすでも利用できるよう、流し台の下には空間があります。お風呂には手すりが付いていて、安全性を考えた造りになっています。マイさんの傍には、笑顔で私たちを歓迎してくれるお母さんが居り、私も日本の母の笑顔を思い出しました。

マイさんは現在、車いす生活をしている 40 代半ばの笑顔の素敵なタイ人の女性でした。

自分自身が子どもの頃、学校へ行く機会が無くとても悔しい思いをしたそうです。マイさんは独学で通信教育などを学び、車の免許を取得し、就業し自立を果たしました。



やはり、タイの国でも就業には車の免許は役立つのだと感じました。今は、自宅で障がいを持つ子ども達にタイ語の読み書きやパソコンの使い方を教えています。特に知的障がい児には、一人一人に寄り添うように教えていました。

チェンマイは古い街並みで、日本より道路がガタガタで歩道整備も出来ておらず、車いすには、困難な道ばかりです。しかしタイの人々は、私たちが困っていると必ず笑顔で手を貸してくれました。

タイ語で「コップンカー」が「ありがとう」という意味なので、私は何度も「コップンカー」と繰り返していました。



現在、タイの障がい者活動に協力する HFF JAPAN では、「国際協力・障がい者自立センター」“愛のかけはし”（佐賀県多久市）を計画し、目標に向かって走っています。

このツアーの貴重な経験を通して知ったことや感じたこと、途上国で頑張っている障がい者からのメッセージを日本の多くの人々に届け、タイと日本の「愛のかけはし」を共に作って行きたいと思っています。

日本の多くの人に「国際協力」について考え・行動できる仲間を作り、西条市にも日本第 2 の“愛のかけはし”を作るのが私の目標になりました。それにはまず、相手を知り・押し付けないで一緒に出来ることを探すことから始めようと思います。（徳増）



「壬生川の花火」

海面に花火の光線が映りこんでいます、珍しい形の花火でした。

撮影：のぶちゃん

「我が家の愛息子Manaくん」

別府駅前のホテル（ワンコ同室OK）でベッド占拠！

撮影：☆アンジェリケ☆

投稿コーナー「たしっぽ」

朝毎に ^{さにわ}狭庭明るき ^{むくげ} 権かな

カズエ

2、3日前から権の花が咲き始めました。朝に開花して夕方には散ってしまうけれど、毎朝庭に出て、咲いた花を見ると心が明るくなります。

※俳句や川柳・エッセイなど皆さんの目ごろの思いをつぶやいてみませんか？

編集後記

オンリーワン創刊号発行から数えて『26号目』になります。この1～2年で編集委員に新しい仲間が加わり機関誌の内容も多様で幅広くなりました。

今年の暑さも非常に厳しいですが、編集委員一同頑張って編集活動に取り組んでいます。

機関誌を温かく支援して頂いてる皆様に『残暑お見舞い申し上げます』（梅野）



発行：西条市障害者相談支援センター（西条市社会福祉協議会）

編集：オンリーワン編集委員

〒799-1371 西条市周布 606 番地 1 西条市東予総合福祉センター内

TEL：0898-64-2600 (代) FAX：0898-64-3920 E-mail：soudan-saijo@galaxy.ocn.ne.jp